

第9回 空港内の施設の維持管理等に係る検討委員会

議事概要

日時：平成5年2月28日（火）

10時00分～11時30分

場所：尚友会館（2階会議室）

○これまでの取り組み

- ・赤外線、MMS等の技術を使うに当たり、PDCA等全体のシステムとしてうまく回っているという資料が欲しい。
- ・新技術についてはその効果の計測が大事である。
- ・新技術について羽田空港のような大規模空港でメリットがあっても、地方空港であまり使われていないのであればインセンティブが必要ではないか。
- ・CALS等のシステムは使いやすくない部分を順次改善していくことが重要であり、そのためには、データの積み重ねが必要。
- ・巡回点検システムとMMS等との連携が図れるとよい。

○検討の方向性

<今後の維持管理のあり方>

- ・除雪の技術に見られるように、熟練者など特殊技術を必要としなくても誰でも出来るようになる技術の発展が今後の労働力不足を見据えて大事になる。
- ・CO2削減対策で施設のメンテを含めたライフサイクルも考えていく必要がある。
- ・草刈りでは梱包や運搬なども自動化が図れると良いと思う。

<維持管理指針の見直し>

- ・緊急修繕工事の実績が減ってきているのは新材料の適用に依るものだけでなく、特にクランクやわだちのような繰返し荷重の影響を強く受ける項目に関してはコロナの影響によって減便したことが含まれている。減便ばかりでなく大型機の離着陸が減ったことの影響が大きいと思われるので、それを踏まえて結果を分析して欲しい。
- ・緊急点検の震度の扱いは、他の施設における考え方も参考に検討して欲しい。

○その他

- ・地方自治体や民間管理者へも展開する必要がある、この議論に加えることも検討して欲しい。
- ・維持管理業務をしっかりと行うことで滑走路をクローズせずに済んだというようなヒヤリハットも収集して参考にするとともに、維持管理業者の技術力の維持・向上という観点も今後は重要になる。

以上。